

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17062

建築物名称	(仮称)特別養護老人ホーム 桜の丘 新築工事
建築主	社会福祉法人 白山福祉会 理事長 湖山 泰成
建築物の所在地	川崎市中原区井田3丁目1438番3の一部
設計者氏名、建築士事務所名	輿水 昭裕 株式会社奥野設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	6,642.68m ²
用途	特別養護老人ホーム
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上4階
工事完了予定年月	平成31年7月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

CASBEE川崎

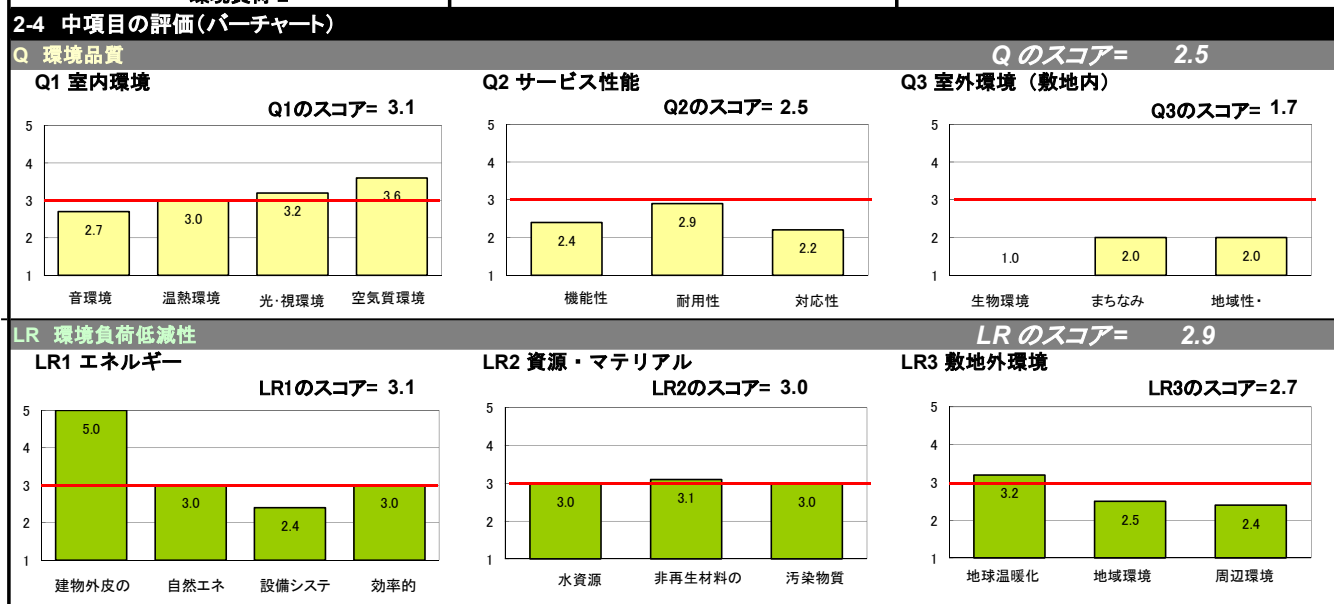
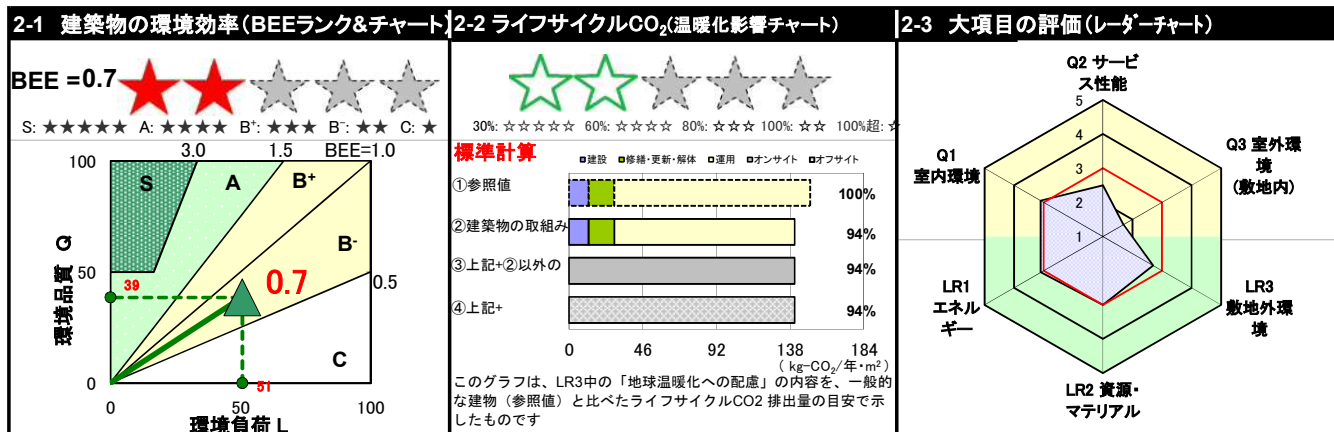
■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)特別養護老人ホーム 桜の丘 新築工事	階数	地上4F
建設地	川崎市中原区井田3丁目 1438番3の一部	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	214 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2018年3月13日
敷地面積	3,633 m ²	作成者	奥水 昭裕
建築面積	2,250 m ²	確認日	2018年3月16日
延床面積	6,643 m ²	確認者	奥水 昭裕

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目数 最高スコア 合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	1.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		1.3/4.3	1.5
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	近くの気象台データや地域気象観測データ等の既存データを用いて風向風速卓越風などの風環境を把握している	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.5
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	外部に面する壁や屋根に断熱材を施工し、室内への熱の侵入に対する断熱性に配慮している	0.9/1.4	3.1
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御	庇により昼光制御に配慮している		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	植栽管理や清掃活動を計画的に行う	0.5/2.3	1.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	外部に面する壁や屋根に断熱材を施工し、室内への熱の侵入に対する断熱性に配慮している	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEIm = 0.92		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	主要水栓に節水コマなどが取り付けられている	2.9/4.7	3.1
2 非再生性資源の使用量削減	リサイクル資材としてビニル床材を使用		
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	外壁吹付仕上耐用年数15年	0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.5/4.0	3.1
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げ材が容易に分別可能とし、建物修繕時の使用部材の効率化に配慮している		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	利用状況に応じた駐車場・駐輪場を確保し、交通負荷抑制に配慮している	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	植栽管理や清掃活動を計画的に行う	0.5/2.3	1.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	外壁、屋根に断熱材を施工し、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEIm = 0.92		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	外壁、屋根に断熱材を施工し、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEIm = 0.92		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE-川崎2017年版
(仮称)特別養護老人ホーム 桜の丘 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート	実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	重点項目	G	W	R		H	評価点	重み係数	評価点	
配慮項目										
Q 建築物の環境品質										2.5
Q1 室内環境							0.40		-	3.1
1 音環境						2.6	0.15	2.7	1.00	2.7
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						2.2	0.40	2.4	0.40	
1 開口部遮音性能						1.0	0.40	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	3.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境						3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能					W	3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						3.0	0.25	3.6	1.00	3.2
3.1 昼光利用						4.2	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率					病室部・2.2%及び3.2% 病院共用部:3.0%としている	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口							-		-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御					カーテン及びバルコニーによりグレアを制御	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策						4.0	0.63	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆の建材をほぼ全面に採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.38	3.0	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能							-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理							-		-	
1 CO ₂ の監視							-		-	
2 喫煙の制御							-		-	

Q2 サービス性能				—	0.30	-	-	2.5
1 機能性				2.4	0.40	2.6	1.00	2.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性			3.0	1.00	3.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応							
3	バリアフリー計画			3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	
1	広さ感・景観			3.0		3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース							
3	内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30			
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30			2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30			
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		3.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.20			
2.4 信頼性				3.0	0.20			
1	空調・換気設備			3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性				2.4	0.30	2.0	1.00	2.2
3.1 空間のゆとり				1.0	0.30	1.0	0.50	
1	階高のゆとり			1.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			1.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.40			
1	空調配管の更新性			3.0	0.20			
2	給排水管の更新性			3.0	0.20			
3	電気配線の更新性			3.0	0.10			
4	通信配線の更新性			3.0	0.10			
5	設備機器の更新性			3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30			1.0
		G	W	H				
2 まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40			2.0
		G						
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				1.0	0.50			
		G	W	H				

LR 建築物の環境負荷低減性										2.9
LR1 エネルギー										3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制				W		H	BPI _m =0.75	5.0	0.20	5.0
2 自然エネルギー利用				W		H		3.0	0.10	3.0
3 設備システムの高効率化				W		H	[BE][BE _m] = 0.92	2.4	0.50	2.4
4 効率的運用								3.0	0.20	3.0
集合住宅以外の評価								3.0	1.00	
4.1 モニタリング				W		H		3.0	0.50	
4.2 運用管理体制				W		H		3.0	0.50	
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング				W		H				
4.2 運用管理体制				W		H				
LR2 資源・マテリアル										3.0
1 水資源保護				W		R		3.0	0.20	3.0
1.1 節水								3.0	0.40	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	
1 雨水利用システム導入の有無								3.0	0.70	
2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	0.30	
2 非再生性資源の使用量削減								3.1	0.60	3.1
2.1 材料使用量の削減				W		R		2.0	0.10	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W		R		3.0	0.20	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R		3.0	0.20	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W		R	ビニル床材	3.0	0.20	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W		R		3.0	0.10	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W		R	躯体と内装仕上材を容易に分別可能な工法(LGS工法)を採用している	4.0	0.20	
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	
3.2 フロン・ハロンの回避								3.0	0.70	
1 消火剤				W				-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				W				3.0	0.50	
3 冷媒				W				3.0	0.50	
LR3 数地外環境										2.7
1 地球温暖化への配慮				W			ライフサイクルCO2排出率=94%	3.2	0.33	3.2
2 地域環境への配慮								2.5	0.33	2.5
2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H		2.0	0.50	
2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.0	0.25	
1 雨水排水負荷低減						R		3.0	0.25	
2 汚水処理負荷抑制						R		3.0	0.25	
3 交通負荷抑制						R		3.0	0.25	
4 廃棄物処理負荷抑制						R		3.0	0.25	
3 周辺環境への配慮								2.4	0.33	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	
1 騒音								3.0	0.50	
2 振動								-	-	
3 悪臭								3.0	0.50	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								1.6	0.40	
1 風害の抑制								1.0	0.70	
2 砂塵の抑制									-	
3 日照阻害の抑制								3.0	0.30	
3.3 光害の抑制								3.0	0.20	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								3.0	0.70	
2 壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	